

背景・課題

○将来にわたり、日本が科学技術分野で世界を牽引するためには、イノベーションの創出を担う、科学技術人材の育成を中等教育段階から体系的に実施することが不可欠。

「第6期科学技術・イノベーション基本計画」（令和3年3月26日閣議決定）

- スーパーサイエンスハイスクール（SSH）において、科学技術人材育成システム改革を先導するような卓越した研究開発を進めるとともに、SSHのこれまでの研究開発の成果の普及・展開に向けて、2022年度を目途に一定の実績を有する高校等を認定する制度を新たに創設し、その普及を図ることなどにより、STEAM教育を通じた生徒の探究力の育成に資する取組を充実・強化する。

「経済財政運営と改革の基本方針2023」（令和5年6月16日閣議決定）

- デジタル化やグローバル化など社会の急速な変化への対応を加速し、文理の枠を超えた多様性のあるイノベーション人材の育成強化や国際的な人的交流の活性化を図る。その際（略）文理横断的な大学入学者選抜・SSH等による学びの転換の促進（略）を図る。

事業概要

〔事業開始：平成14年度〕

【事業の目的・目標】

- 先進的な理数系教育や文理融合領域に関する研究開発を実施している高等学校等を「スーパーサイエンスハイスクール（SSH）」に指定し支援することを通じて、将来のイノベーションの創出を担う科学技術人材の育成を図る。
- 高等学校等の理数系の教育課程の改善に資する実証的資料を得る（学習指導要領の枠を超えた教育課程の編成が可能）。

【事業規模】

- 令和6年度指定校数：225校（うち認定枠15校）
（うち新規：61校（うち認定枠7校））
- 指定期間：原則5年
- 支援額：1期目1年目 12百万円/年、
1期目2・3年目 10百万円/年、
1期目4年目以降 7.5百万円/年
（ただし先導的改革期は、6百万円/年）

【取組・支援内容】

- 高大・企業連携による興味関心の喚起、フィールドワーク等による課題研究
- 海外の高校・大学等との連携による国際的に活躍する意欲・能力の育成、社会貢献等
- 探究・STEAM教育を推進するため、希望する管理機関にコーディネーターを配置（18機関）

【重点枠】

- ・指定期間：最長5年、支援額：年間5～30百万円
- ・重点枠数：12校＋1コンソーシアム
（うち新規：3校＋1コンソーシアム）

○SSH指定校の中で、さらに、以下の取組を行う学校を重点枠として追加支援。

<高大接続>

高大接続による一貫した理数系トップレベル人材育成プロセスの開発・実証。

<広域連携>

SSHで培ったカリキュラムや指導法、ネットワークなどを都道府県レベル又はそれ以上の広域に普及することにより、地域全体の理数系教育の質の向上を図る。

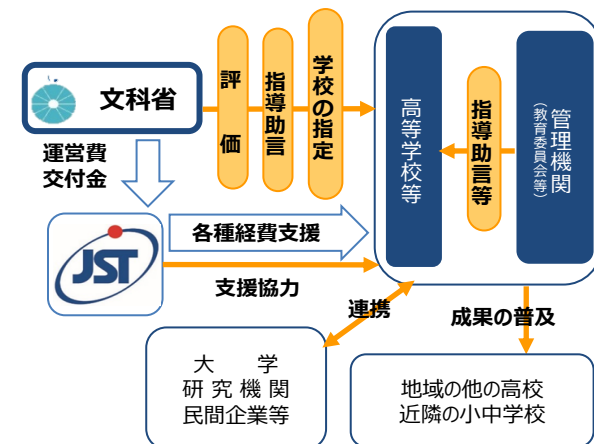
<海外連携>

海外の研究機関等と定常的な連携関係を構築し、国際性の涵養を図るとともに、将来、言語や文化の違いを越えて共同研究ができる人材の育成を図る。

<革新共創>

社会問題・地域課題について、NPO法人・企業等との連携や、先端的な科学技術の知見やデータサイエンスの手法等を活用しながら、文理横断的な領域も含めた科学的な課題研究を行うことにより、新たな価値の創造を志向する人材の育成を図る。

※先導的改革期・認定枠の指定校も全重点枠に申請可・同額支援



これまでの成果

- **学習指導要領改訂**：高等学校学習指導要領（令和4年度から年次進行で実施）において、科目「理数探究基礎」「理数探究」を新設（共通教科「理数」）。
- **科学技術への興味関心や姿勢の向上、進路選択への影響**
（スーパーサイエンスハイスクール意識調査結果より）
- **SSH卒業生の国内外での活躍**
- **科学技術コンテスト等における活躍**：国際科学オリンピック国内大会参加者の約3分の1、ISEF（課題研究型国際コンテスト）に出場した日本代表生徒の約5割がSSH指定校生徒。

（担当：科学技術・学術政策局人材政策課）